



山肌に炎が広がり、煙が立ち上る大室山の山焼き。28日午後0時15分、伊東市（本社ヘリ「ジェリコー」号）から

春呼ぶ炎

伊東市の大室山で28日、伊豆高原の風物詩「大室山の山焼き」が行われた。大勢の市民や観光客が訪れ、春の到来を告げる光景を楽しんだ。

伊東 大室山の山焼き

正午を知らせる花火が上がると、たいまつを手にした観光客らが麓から一斉に点火。炎はパチパチという音を立てながら標高581

山の山頂を目指して燃え上がり、大量の煙が立ち上った。20分ほどで黄土色だった山は黒色に変身した。

4月下旬ごろに新芽が伸び始め、山肌は若草色に染まっていく。

山焼きは、肥料に使うカヤの育成を促すために約700年前に始まった伝統行事。背の高い草木が育たなくなるため、おわんを伏せたような美しい山の輪郭が保たれている。

2016年2月29日朝刊

①山焼きは何のために行うのでしょうか。

②山全体が焼ける時間はどのくらいかかりますか。

③あなたが、春を感じる行事や出来事を書きましょう。

年 組 名前